

株式会社損害保険ジャパン（旧・安田火災海上保険株式会社）

「引き続きNACS-Jで学生の受け入れをお願いしたい」

損保ジャパン（株式会社損害保険ジャパン）

<http://www.sompo-japan.co.jp/>

< 自然しらべ > に協力した理由は？

安田火災では、社員一人ひとりが「よき家庭人、よき社会人」「地球市民」として自主的に環境保全活動や地域活動を行えるよう、ボランティア情報を全社の情報ネットワークで提供しています。「自然しらべ」は、日本全国にいる社員が、自分の住む地域でできる活動ですので、協力しやすい企画でした。実際に「自然しらべ」で地域の川を調べた社員からは「ゴミが1つでも浮いていると気になるようになった」「豊かな自然が身近にあることに気づいた」などの感想が寄せられました。また、システム部門の社員を中心に、パソコンの特技を活かしてデータ入力のボランティアをさせて頂きましたが「全国の自然の状況がわかって面白かった」「こういう手軽なボランティア活動があることを知らなかった」などの声がありました。



自然保護データベースをつくっている広田容子さん

また、保険を販売する代理店組織である「SASY」は、設立40周年の記念として寄付をさせて頂きました。

< インパク > でNACS-Jを寄付先にした理由は？

安田火災はインターネット博覧会に「エコクラシーの森」という環境をテーマにしたパビリオンを出展しています。（森本様：NACS-Jでご用意くださる導入部分に入れて頂いてもOKです）このサイトによって、多くの方々に自然について何かを感じてもらおうきっかけになれば！と思い、記念日メールでは、美しい風景などの画像

を環境保護団体からお借りして使うことに決めました。もちろん、全国の自然の状態をよく知っておられるNACS-Jには、美しい写真(また、そうでない写真)が沢山あると思い、画像のご提供をお願いし、また、その写真の説明文を作ってくださいました。

この記念日メールは、メッセージカードを1件利用すると20円が環境保護団体に安田火災などスポンサーから寄付する仕組みになっていますので、多くの方にご利用頂きたいと思います。

奨学生制度を考えられた経緯、今後の展開予定。

安田火災環境財団は「環境保全活動に活躍する人材育成支援」を行うことが事業目的の1つです。その一環で「安田火災CSOラーニング奨学金制度」という、CSOに興味がある大学生に実際にCSOで働き、「学んで」もらう制度を2000年に開始しました。CSOには先駆性、機動性、変革性など様々な特徴があるので、学生の皆さんにCSOで活動してもらうことによって、広い視野で物事を考えられる社会人になって頂けることを期待しています。学生の皆さんはCSOで「学んで」いるので、「ちきゅうくらぶ社会貢献ファンド」という安田火災の社員が毎月のお給料から100円以上を寄付して集めたファンドから奨学金を差し上げています。



自然しらべに参加している佐竹繁春くん

NACS-Jでは、佐竹繁春くんと広田容子さんが活動させて頂いており、毎月、「どんな活動をしたか、何を感じたり考えたりしたか」の報告書が来ますが、森本さんをはじめ職員の皆様からご指導頂き、とても充実した日々を過ごしていることが伺われます。今後もこの制度は継続していく予定で、引き続きNACS-Jで学生の受け入れをお願いしたいと思っています。(前項目までと違い、環境財団が初めて主語になっています。財団の説明を導入の部分などに入れたいと思います。)

NACS-Jに期待することはなんですか？

NACS-Jが「自然環境と経済の両立の社会」にむけて活動をはじめて50周年という記念すべき年が、21世紀幕開けの今年だと伺っています。今後も変わらぬご活躍をお祈りするとともに、次世代に美しい自然を繋いでいく活動のお手伝いを、微力ながら安田火災もできればと思っています。今後も協力させて頂ける企画などがあれば、いつでもお知らせ頂きたいと思います。

